

マーケット概況（2026年4月）

4月の債券相場は、米国・イスラエルとイランの軍事衝突が終結に向かうとの期待の高まりから原油先物相場の上昇が一服し、インフレ懸念の後退により買い先行で始まった。10年381回債は前月末比-2.0bpの2.325%で取引を開始し、一時2.295%まで利回りが低下した。しかし、2日に行われたトランプ米国大統領の演説内容を受け中東情勢の緊迫が長期化する懸念が強まったことや、同日の10年債入札の結果が非常に低調な内容となったことから、相場は反落した。米国とイランが2週間の停戦で合意したことを受け下値が底堅くなる場面もあったが、インフレへの警戒は根強く、軟調な相場が続いた。さらに12日に行われた米国とイランの戦闘終結に向けた協議が合意に至らなかったことから、相場は下げ幅を拡大した。中東情勢と原油先物相場をにらんでの取引が続くなか、28日に行われた日銀金融政策決定会合では大方の予想通り利上げが見送られた。会合において政策委員のうち3人が政策金利の引き上げを主張し、次回会合以降の利上げが意識されたことや、原油先物相場の上昇を受け、月末の債券相場は売りが優勢となった。新発10年382回債の利回りは一時2.535%と10年最長期物としては1999年2月以来の水準まで上昇し、5年184回債は1.905%と発行開始以来の最高利回りを記録した。結局、10年382回債の利回りは2.515%で今月の取引を終えた。

<短国市場>

4月の短国市場は、前月に引き続き4月利上げを織り込む動きが継続し、3日の3M1372は0.8823%、9日の6M1373は0.9524%、10日の3M1374は0.8823%と金利上昇し、16日の1Y1375は1.1101%と過去最高金利の更新となった。しかし終結に向かうと思われていた米国とイランの戦闘について不透明感が高まり長期化の様相を呈すると、次第に4月利上げ思惑が剥落し、17日の3M1376は0.8249%、24日の3M1377は0.7937%と金利低下が続いた。28日の日銀の金融政策決定会合では政策金利は据え置きとなるものの、反対票が3票あったことが報じられると、6月利上げ思惑が浮上し、3M1377は一時0.830%で取引されるなど再度金利上昇し、今月を終えた。

<一般債市場>

4月の定例地方債は、10年債は前月から6bpワイドで国債カーブ対比+18bpとなり、5年債は5bpワイドで国債カーブ対比+14bpの条件決定となった。ここもとの金利の方向感が不透明化しているなか、スプレッド水準の見直し機運の高まりがあった。4月の定例地方債10年債は2,660億円、5年債は600億円の発行となった。表面利率は、スプレッドが調整されたことで2.50%台と高い水準で決まった。10年定例政保債は、地方債のスプレッド調整に倣い前月比+6bpの国債カーブ対比+16bpの条件決定となり、今年度も政保債・地方債スプレッドは2bpが継続している。4月の事業会社債の発行額は、大型起債であった三菱フィナンシャルグループ永久劣後債の計3,500億円や東京電力パワーグリッド債の3本立て計1,700億などが寄与し払込日ベースで計13,585億円(43銘柄)となった。

◎ 主要債券月間四本値

銘柄	始値	高値	安値	最終出来値
#382	2.340(2日)	2.340(2日)	2.535(30日)	2.515(30日)
#381	2.325(1日)	2.295(1日)	2.525(30日)	2.510(30日)
#371	2.110(1日)	2.090(2日)	2.300(30日)	2.295(30日)
#183-#184(5Y)	1.755(1日)	1.725(1日)	1.905(30日)	1.890(30日)
#195-#196(20Y)	3.205(1日)	3.195(1日)	3.405(30日)	3.395(30日)
#1367-#1373 TDB(6M)	0.950(9日)	0.890(24日)	0.950(9日)	0.900(30日)
#1371-#1377 TDB(3M)	0.900(3日)	0.755(22日)	0.900(3日)	0.820(28日)